

医療提供体制

医療機関

通常医療との両立を図るため、病床確保レベル1 (5,047床)

最大確保病床 7,179床

一般医療や救急のひっ迫状況、重症患者の割合などに応じて、通常医療への振り替えや、重症者用病床数の引下げなど、柔軟な運用を行う

軽症・中等症の患者の転院、軽症者の宿泊療養施設、自宅等への退院を促進

臨時の医療施設の高齢者等医療支援型施設(赤羽)137床を設置(5/9~)

病院における感染症対策のための施設整備への支援を強化

酸素・医療提供ST

肺炎症状が少ない特性を踏まえ機能転換(外来、救急応需を強化)

458床:調布 84床 立川 92床に移転(6月21日)、築地デポ 191床、都民の城 140床、練馬 35床

宿泊療養施設

確保居室 約12,000室を維持、施設稼働レベル1(約9,000室)

うち医療機能強化型 220室、妊婦支援型 40室維持

入所調整本部 最大276名体制(76 196 276名)

医療提供体制

感染拡大時 療養施設

原則無症状・重症化リスクのない軽症の陽性者で家庭内感染の可能性のある方、親子で療養可能な入居施設 409床(立飛279床、立川130床)
うち医療機能強化型施設100床(立飛)

検査体制

第6波実績を踏まえた20.8万件/日の検査需要見込みに対し、合計29万件/日の検査体制を確保

行政検査:約10万件/日、**検査機器の増設支援**(6月~)

集中的検査等:約10万件/日、**施設等職員の頻回検査**(週1回 週2~3回)**を実施**(4/7~)

無料検査:最大5万件/日(**定着促進事業**:8月末迄延長、**一般事業**:当面の間延長)

濃厚接触者への検査キット配布:4万件/日(当面の間延長)

診療・検査医療機関(約4,500機関)の増加を働きかけ、**診療所におけるゾーニング等の施設整備を支援**、**絞込み検索機能の充実**などの**診療・検査医療機関マップの機能改善**(3/11~)

医療提供体制

自宅療養体制

発熱相談センター 340回線

(100回線 150回線(1/20～) 200回線(2/1～) 280回線(2/11～) 340回線(2/19～))

自宅療養者フォローアップセンター 4か所最大600名体制
自宅療養サポートセンター(うちさぽ東京) 最大340回線

入院調整本部の体制維持(軽症者の入院調整、保健所支援機能、往診調整機能等)
(1月以降2,800件を超える転退院を実施)

医療機関による陽性判明直後からの健康観察の促進(約1,800医療機関が参画)

往診体制(都内全域オンライン診療、医師会往診(38地区)、広域的に実施する医療機関(36医療機関)、施設向け医療支援チーム(25地区医師会)、かかりつけ医への透析患者の搬送(2/5～))

パルスオキシメーター 約33万台確保、配食サービス 最大9.6万食/週

「自宅療養者向けハンドブック」を改訂、学生寮・部活動で集団感染を防ぐチェックリストの作成、学生を対象とした感染予防チェックリストを新たに作成(4/22～)

医療提供体制

高齢者 対策

施設の感染制御・業務支援体制の強化(事前研修実施、支援チーム派遣、相談窓口設置)(4月下旬～)

高齢者施設等職員の頻回検査(週1回 週2～3回)を実施(4/7～)

高齢者施設への往診体制強化(医療支援チーム拡充 25地区医師会)(4月下旬～)

経口薬・中和抗体薬:高齢者施設や施設嘱託医の属する医療機関の登録促進(4/1～)

高齢者等医療支援型の臨時の医療施設を整備(200床、うち100床については7月開設予定)
臨時の医療施設の高齢者等医療支援型施設(赤羽)137床を設置(5/9～)

療養病床を持つ医療機関や軽症・中等症の受入医療機関等の活用を促進(5月中旬～)、
都立公社病院において介護度がより高い高齢者を受け入れる体制を強化(6月～)

コロナ治療が終了した高齢者の療養病床への転院促進(5月中旬～)

ワクチンバス(移動式接種会場)、都大規模接種会場での4回目接種推進、
高齢者施設入所者の確実な4回目接種の促進

高齢者施設の人的応援体制を強化(理学療法士、作業療法士を派遣)(5/17～)

医療提供体制

子ども 対策

保育所等へ感染対策支援チームを派遣、保育施設における感染症対策リーフレット改訂

保育士・ベビーシッター・小学校職員を対象に集中的検査を実施中

保育施設等職員の頻回検査(週1回 週2~3回)を実施(4/7~)

自宅療養中の子どもへの往診の実施(3/17~、502件)

休日に小児の診療を行う医療機関の体制強化(4月末~)

妊婦支援型の臨時の医療施設(イースタワー(品川プリンスホテル)・ファーストビレッジホテル東京有明・都立・公社病院)(再掲)

子どもを含む家族で利用可能な感染拡大時療養施設(再掲)

保育士・ベビーシッターへのワクチン接種を推進、親子接種の実施(3/14~)、
ワクチンバス(移動式接種会場)による小児接種を実施(3/23~)

保育所等の休園時における代替保育(公民館・児童館等)への支援

親が陽性・子どもが濃厚接触者となった場合の、子どもの預け先を確保

医療提供体制

保健所体制

業務の重点化、都職員の派遣(約100名規模)、見える化やチャットボット、ウェアブル端末による健康観察を先行実施、進捗確認ツールの区市保健所への横展開(4月～)
保健所を通さず宿泊療養を希望する患者が直接申し込む体制(9割超が直接申込)

ワクチン

3回目接種の加速:一般高齢者(R4.1～)、警察・消防関係者(1/19～)、高齢者施設等従事者(2/3～)、保育士等(2/8～)、18歳以上の都内在住・在勤・在学者(2/28～)、予約なし接種(3/15～)、団体接種(4/11～)
4回目接種開始(区市町村:5月下旬から順次、都・大規模接種会場:6/1～)、**高齢者施設入所者の確実な4回目接種の促進**
都・大規模接種会場:6/1から4会場に再編(都庁南・行幸地下・立川南・三楽病院)
ワクチンバス(移動式接種会場)の高齢者施設・山間地域・大学派遣(2/14～、130か所)
戦略的広報の実施、企業・大学・2回目接種を実施した業種等への働きかけ(4/8～、約3.4万件)、ワクションアプリの積極的活用(4/8～)

経口薬 中和抗体薬

経口薬提供体制の確立、高齢者施設や施設嘱託医の属する医療機関の登録促進(4/1～)
(ラゲプリオ:登録済医療機関3,623(うち施設150)・発注済薬局2,329、パキロビッド:登録済医療機関数502・対応薬局341)
臨時の医療施設における中和抗体薬の投与、治療薬などについては、より利用しやすくなるよう、流通の改善を図ることを国に要望

都・大規模接種会場

No.	会場名	使用ワクチン				最大接種規模	備考
		ファイザー (1~4回目)	モデルナ (1~4回目)	アストラゼネカ (3・4回目)	ノババックス (1~3回目)		
1	都庁南展望室					1,500 回/日	予約なし接種実施（モデルナのみ） 団体接種に対応
2	行幸地下					4,000 回/日	
3	立川南					1,500 回/日	
4	三楽病院	(月・木)				100 回/日	親子接種を実施
		(火)				50 回/日	順次拡大予定（最大100回/日）
		(金)				800 回/日	
都・大規模接種会場の最大接種規模						7,800 回/日	

 ワクチンバスによる接種（約1,000回/日）と合わせて、**約9,000回/日**

今後のコロナ対策に関する国への要望事項（6/16提出）

- 1 自治体等の意見を踏まえた諸制度の検討
(専門家と政府、政府内での一元的な体制構築等)
- 2 今後の感染動向に応じた全般的な対応方針の明確化等
- 3 適切な水際対策及びサーベイランスの確実な実施
- 4 検査・診療体制の確立等、インフルエンザ等との同時流行への対応
- 5 医療を確実に提供するための取組の強化
- 6 対策経費の全面的支援

コロナ対策の現場を預かる都として、これまでの成果や課題も踏まえ、国に対して、医療提供体制や感染防止対策など必要な事項を要望